

学会報告

第 11 回 バイオメカニズム学術講演会

星 宮 望\*  
村 上 肇\*

第 11 回 バイオメカニズム学術講演会が、1990 年 9 月 28 日 (金)・29 日 (土) の両日、東北大学工学部青葉記念会館 (宮城県仙台市) にて開催された。前年 (1989 年) の学術講演会は例外的にバイオメカニズムシンポジウムとの同時開催という形式を取ったこともあって、非常に盛況であった。一方今回は従来例にならい講演会単独開催であることを踏まえ、「シンプルに小さくまとめて充実させる」という方針の基に準備を進めて行った。

1989 年 12 月 15 日に第 1 回実行委員会が開催され、講演会運営に際しての基本方針、各委員の役割分担、広報の方法等について検討を行った。学会誌の広報としては、第一報を Vol.14, No.1 に、募集要項については Vol.14, No.2 に掲載した。またそれ以外に募集要項は関係各方面にダイレクトメール等で配布し、広く参加を募った。

明けて 1990 年、5 月 31 日の演題申込締切を受けて、第 2 回、第 3 回の実行委員会をそれぞれ 6 月 21 日、7 月 12 日に開催し、講演会のセッションについて、演題の配分と座長依頼について検討した。

8 月 13 日に予稿の原稿締切を迎え、準備はいよいよ秒読みに入って行った。実行委員も各担当に分かれて、それぞれの作業を進めて行き、9 月 17 日の第 4 回実行委員会では講演会当日へ向けての最終的な打ち合わせを行った。

ところで会員の皆様は、今年の講演会のプログラムが学会誌に綴じ込まれず、単独の小冊子の形式で配布されたことにお気づきであろう。これはある実行委員の意見を参考に行ったことである。

即ち、プログラムを入手すれば (自分達がそうやっているから) 参加者の皆様もすぐに興味ある演題をチェックするに違いない。そして、そのような書き込みをしたプログラムを、講演会当日に持参するには、綴じ込みよりも小冊子形式の方が扱い易いのではないかと考えた次第である。そこで今年のプログラムは従来のような綴じ込みにはせず、学会誌 (Vol. 14, No. 3) 配布時に小冊子を同封するという方式をとった。このような同封方式には賛否両論あるに違いない。皆様のご意見を拝聴できれば幸いである。

さて 9 月 28 日午前 9 時 40 分に、東北大学工学部青葉記念会館の 4 階大研修室 (第 1 室)、5 階大会議室 (第 2 室) を用いて学術講演会が始まった。演題数は特別講演も含めて 65 件となった。詳細は表 1 に示す。

表 1. 第 11 回 バイオメカニズム学術講演会  
セッション別演題数

義肢, 装具	7
コミュニケーション機器, 感覚代行	4
特別講演	1
骨, 関節の力学	4
スポーツ, バイオメカニズム	6
生体モデル, シミュレーション (I, II)	10
上肢, 下肢の運動	7
リハビリテーション工学, 支援ロボット	5
生体情報の計測, 解析 (I, II)	11
機能的電気刺激 (I, II)	10
計	65

特別講演は、文化勲章受章者で東北大学名誉教授の西澤潤一先生 (その直後、第 17 代東北大学長に就任) に「結晶成長の機構」という演題でお願いした。先生の御専門である半導体工学に関す

平成 2 年 10 月 29 日受付

\* 東北大学工学部通信工学科

〒980 宮城県仙台市青葉区荒巻字青葉

る内容であったため、バイオメカニズムの領域と直接的な関連は薄かったものの、「独創的な研究をいかに進めて行くか」という普遍的な事項について感銘を受けた聴衆も多かったことと思う。

9月28日夕刻には懇親会が開催された。40余名の方々が参加され、各々気軽に親交を深めることが出来た。また懇親会の席上、藤井克彦先生の名誉会員への推挙、並びに学会賞、論文賞の表彰が行われた。

講演会の参加者数は最終的には127名となった。内訳を表2に示す。例年通りの講演時間20分、2室制を取ったが、演題数がやや多かったことから時間に余裕がなくなったきらいがある。十分な議論を行う時間がなくなってしまったセッションも

あったかも知れないが、どうかお許し頂きたい。

講演会も無事に閉会することができ、最後の実行委員会は10月6日に行われた。そして講演会の決算報告、反省点のディスカッション等を行い、解散となった。振り返れば「あの時には、ああすれば良かった」と思う事柄が次から次へと浮かんでくる。しかし、たとえ至らない点は多かったとしても、実行委員会が一丸となって最大限の努力を行ってきた成果が今回の学術講演会である。最後に実行委員会メンバーを表3にて紹介し、各位の協力に感謝しつつ筆を置くこととする。

表2. 第11回バイオメカニズム学術講演会参加者数

学 会 員, 協賛学会員	78
非 会 員	10
学 生	38
計	127

表3. 第11回バイオメカニズム学術講演会  
実行委員会メンバー

委 員 長	星宮 望
副委員長	中野榮二 半田康延
委 員	二見亮弘, 村上 肇, 大庭茂男 安田南枝, 市江雅芳, 半田 勉 高橋博達